
LOCK UP !

阿僧祇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

LOCK UP!

【Zコード】

Z3350W

【作者名】

阿僧祇

【あらすじ】

高校生の孝則は、朝の通学電車の中でクラスメートにいたずらさ
れ、ホンモノの手錠を右手にかけられる。そしてもう片方は、偶然
通りかかった見ず知らずの女の子（久美）の左手に嵌まってしまう
た。クラスメートたちが逃げ出した後、残された二人に、手錠が原
因のトラブルが続発する。32pを想定した漫画脚本の形式です。

(前書き)

登場人物

(名前は仮称であり、変更して問題ありません。また、劇中に名前が紹介されない人物もいますが、絵であるていどキャラ立ちしてさえいれば必要ないという判断ですので、無理してまでセリフに名前を挿入しないでください)

大久保孝則：（おおくぼ・のりたか）イジメラレ者高校生。

高田久美：（たかだ・くみ）他校生の女の子。

高田裕美：（たかだ・ひろみ）久美の姉。大学生か社会人。

新宿春彦：（にいじゅく・はるひこ）痩せ型の、長身で小ずるそうな奴。

男子B：孝則の級友。

男子C：孝則の級友。

男子D：孝則の級友。

日白典貴：（めじろ・のりたか）久美の学校の男子生徒。美形。

女子A：久美の級友。

女子B：久美の級友。

女子C：久美の級友。

女子D：久美の級友。

〔 1 〕

ト「LOCK UP.」

〔 2 〕

(小口音)

プアアア…

電車が走る。

朝の電車内。

やや混みあつてゐるが、男子高校生たちが談笑中。（春彦たち）
その中で、ちよつと嫌そつた顔の孝則。

孝則（心の声）『朝ひぱりからこひと回じ電車か…』『嫌な一日になりそうだ』

春彦「おお、そういう。今日な、画用紙の持つて來たんだ。」
男子C「なに？」

春彦の声「じゅーん」

手に持たれてゐるのは手錠。

手錠に群れてる一同。

男子B「マジ? 本物か」「…」

春彦「ああ、オヤジから黙つて借りてきた」

男子C「刑事の息子が親のものをぎるなよ、春彦…」

男子D「ま、いつもの」とじょん

〔 3 〕

春彦「おい大久保。ちょっと手出せ」

孝則「え？ まさか……」

男子C「いいから出せ。つってんだよーーー」

ガチャツ

孝則の右手に手錠が。

孝則（ひきつり笑い）「おい、冗談はやめてくれよ」「カギは？」

春彦「カギはねえ」

男子B「大久保を手すりにつないじゃ おうぜ」

男子C「よし」

焦つて目を見開く孝則。

孝則「！！」

ブシュウウウウ…

開く扉。ホームに立つてゐる乗客の中に、思案顔の久美。

孝則の声（男子Cにしがみついてる様子）「よせーーー やめろつて

ばーー」

男子Cの声（孝則ともみ合つてゐる）「邪魔するんじゃねえーー」

春彦「逆らうんじゃねえよ、大久保の分際でーー」

〔 4 〕

ガチャツ（擬音のみ）

久美「え？」

左手に手錠が。

孝則「あ？」

男子C「あ…」

ダダダツ

春彦「ヤベエ！」

孝則と久美以外の一同、ホームに飛び出す。
アナウンス「閉まる扉にご注意ください。」

孝則「え！？」

繫がれた孝則と久美は後に残される。

〔 5 〕

ブシュウウウ…

扉が閉まる。

孝則がガラスを拳で叩く。

電車内。

呆然としてる久美と孝則。

久美、手錠を示しながら、

久美「ちょっと… ふざけないで！ 何よコレ！？」

孝則「知るかよ！ あいつらに言つてくれ！」

ふたりは激しく言い合つ。

久美「あなたの友達じゃないの…？」

孝則（手錠を示し）「こんなことをされて仲良しの友達に見えるか？」

「？」

「コトコト、コトコト」

走る電車の中で、手錠され沈黙して見詰め合ひ一人。

〔6〕

プアアアン

走つていく電車。

（時間経過）

駅のベンチに座つてゐる一人。

孝則はやすりを鎖に当てる。

「コリコリコリコリ

久美「鎖じゃなくて、輪を切つて」

「コリコリコリコリ

孝則「…………時間かかるぞ？」

久美「みんなの手錠着けたまま学校に行けないでしょ」

孝則「今日だけ我慢できない？」

〔7〕

久美（絶叫）「今日だからダメなのよつー！」

孝則「…………？」

赤面して目を逸らす久美。

「アリアリアリ…

孝則、鎖を見つめながら

孝則「輪を切つてたら、昼までかかつてもおわらないよ?」

久美「こいつ、困るつ! あたし、今日、一時間目の後に…」

(時間経過)

久美の学校。校舎裏の植木のそば。

繋がれたままの久美と孝則。

久美の前に立つのは困惑してる典貴。

〔8〕

典貴「どうじうこと、これ?」

久美「あつ、あのつ、これにはいろいろと理由が……!」

典貴(不快な表情で立ち去る)「大事な話があるって高田さんが言ったから

来たのに……ふざけてる!」

久美「あ……」

呆然と見送る久美。

なすすべも無く久美を見ている孝則。

肩を震わせてる久美。

その後ろから孝則。

孝則「その、なんて言つか……」

キッ

涙田で孝則を睨みつけ

〔 9 〕

久美（泣き喚き）「どうしてくれんのよ！… ひとの告白ぶつ壊して！ 何とか言いなさいよ！」

タジタジの孝則。

久美（大泣き）「うわわわあああん！…」

公園の時計塔。（時間経過）

公園のベンチでやすりをかけてる孝則。その側で眠つてしまつてる久美。泣き疲れて眠つてしまつたようだ。

ふと久美を見る孝則。

久美の寝顔。

〔 10 〕

孝則、学ランを脱いで久美にかける。

一人で照れて誤魔化す表情の孝則

「リリリリリリ…」

手錠にやすりをかけ続ける。

ゴリゴリゴリ…

目が覚めかける久美。

目が覚めた久美。自分にかけられてる学ランに気が付いて驚く。

〔 1-1 〕

久美（絶叫）「きやあああああっ……！」

学ランを跳ね上げる久美。

孝則は驚いてすっとびかける。

久美「あ……」

地面に落ちて汚れた学ラン。

孝則、すつじりんで汚れて疑問顔。

久美「う、うめんなさい」「つい、気持ち悪い…あ、いや…」

立ち上る孝則

〔 1-2 〕

ゴリゴリゴリ

孝則、泥だらけの学ランを着て無表情でやすりをかけ続ける。

久美「…………」

久美、何か言おうとするけど氣まずくて言えない。

「リゴリゴリ

孝則、無表情でやすりをかけ続ける。

遠くからやつてくる4人の女の子。
久美と同じ制服。こちらを指差して何か話している。

女子A 「久美～い、聞いたわよ」

女子B 「男連れて告白うとしたって？」

女子C 「すごい自信ね」

頭を抱えて目を閉じてしまつ久美。

〔 13 〕

孝則 「やめろよ」

女子C 「あんたが久美のお邪魔虫？」

女子D 「久美の恋を壊してどう責任取る気？」

孝則（立ち上がり）「うるさいー」「オマエらには他人事だらうけど高田さんには

大問題なんだぞ！ もちろん俺にもな！」「てめーら、友達なら無責任に傷付け
るんじゃねえ！」

女子B 「何エラソーに言つてんのコイツ？」

孝則、怒りを我慢する表情。

〔 14 〕

どかつ！

女子Bを蹴り飛ばしてしまつ孝則。

女子A「ひつ……」

驚く4人。

久美（後ろから孝則に飛びつこう）「ちよつと……なにやつてんのよ！」

孝則「え？」

タタタタ・・・・

ひい～～～・・・・

（4人が逃げていく音）

孝則「あ、いや、つい……」

久美（激怒）「つい、じゃないでしょー。女の子を蹴飛ばすなんてなんて乱暴な……！」

〔15〕

孝則「う……うめん。自分の」となら我慢するんだけど、高田さんが馬鹿にされたら、

なんか我慢できなくて……」

久美、ちょっと驚きつつも憮然とした表情で睨み返す。

夕暮れ……（時間経過）

…の久美の家。

裕美「なるほど、事情はわかつたけどね・・・」

〔 16 〕

久美の顔は少し汚れている。（ずっと外にいたため）

久美「でね、お姉ちゃん。わたしたち、もう手が疲れちゃってるから、ヤスリを

お願いできない？」

裕美「冗談！ なんであたしが

裕美「ホームセンターへでも行って、金ノコで切ってもうれば済むことじゃない。」

久美「金ノコ……あ、そうか！」

孝則「でも、ホームセンター、もう閉まってるんじや……」

孝則の顔も汚れている。

裕美（あたり前のよう）（元気）「あした行けば？」

久美「じゃあ今日はこのまんまでことー？」

裕美「一晩くらい我慢しなきよ」「お父さんもお母さんも留守でよかつたわね、説明する

手間が省けて」

困つて顔を見あわせる孝則と久美。

〔 17 〕

電話口。

孝則が受話器を手にしている。その後ろに久美。

そこへ顔を出した裕美が

裕美「お家には？」

孝則「あ、はい。友達のところに泊まるつじ。（嘘せつこひないよな（汗））」

裕美「それじゃ、顔の汚れを落してきなさい。おふろ沸いてるから。

」

呆然としている孝則と久美。

顔を見あわせて驚愕。

孝則＆久美「おふろおー！？」

〔18〕

風呂場。

孝則も久美もタオルで隠ししている。

（どうやって服を脱てだのか読み手さんが考えなによつ誤魔化してください（笑））

久美「隠しどつたら許さないからね？」

孝則「そ、そつちこねー！」

片手で体を洗つてる孝則と、

風呂桶に漬つてる久美。

孝則「か、片手だと、洗いにく〜…」（絵だけでうまく表現できたなら「あ、洗いにく〜…」）

久美「…手伝おつか？」

久美、孝則の背中を流す。

久美「まったく、なんで私がこんなこと」

孝則「ごめん。俺も手伝つからさ」

位置を入れ替えようとして立ち上る孝則。

久美「変なとこ触つたらコロスわよ？」

孝則「…気を付けるよ」

〔 19 〕

さわつ…

しかし、入れ替わるときに久美の手の方が孝則の××に
触れてしまう。

久美 & 孝則「！！」

驚愕する二人。

久美「きやつ！」

孝則「え！？ わつ！…」

久美は驚いて離れようとする。

そのため鎖で引っ張られ孝則バランスを崩す。

どさつ

抱き合つようにマットの上に倒れる二人。

勢いで田隠しがずれてしまう。

〔 20 〕

ひくつ

引きつり顔で見つめてる久美。

ひくつ…

引きつり笑いで見つめてる孝則。

キッチンでは裕美が炒め物中。

孝則の悲鳴「あああああああつーー。握り潰すなあああーつー（涙）」「裕美「あひあ、仲のいい」と。」

九
三

(場面転換)

顔じみハシナカニタリ正に眞然ニシテノ御體

顔じゅうバンドエイドだらけで食事中の不機嫌な久美。

21

そこは食卓だった

裕美「そ、か。右手が繫かれてるから食べにくいのね。」

裕美「久美、食べさせてあけたら？」
久美「なんで私が！」

クス
クス

裕美「一緒におふろに入つた仲でしょう?」

久美（眞赤になって激怒）——おねえちゃん——」

卷之三

ん、構いません、

左手でもなんとか食べられますから。」

孝則を見てる久美

久美「ほら。」

久美、不本意という表情で、フォーアークに刺したソーセージを孝則の口の前へ。びっくりしてる孝則。

〔22〕

久美の部屋。

デスクに向かつて宿題してる一人。

(顔のバンドエイドは孝則だけ)

孝則「この問題はね、こう……」

久美「あ、そうだったんだ」

久美、挑戦するような笑顔で

久美「ふーん。意外に頭いいじゃない?」

孝則「いちおう、国立目指してるから」

久美（軽蔑して）「なによ？ あんた一流大学行つて出世しようつてクチ？」

孝則^{くわくじ}「理数系に進んで、体の不自由な人を助けるロボットを作るんだよ！」

目を見開く久美。

〔23〕

孝則、手錠で繋がれた手を示して

孝則「こんなふうに利き手が使えない人でも、困らないようにね」

久美、驚いて

久美「すごい……将来のことなんて、わたし、まだ考えてなかつた。」

「

孝則は無視するように

孝則「やりたいことはいずれ見つかるが、あとはやる気になるかどうかだけだ」

久美（立ち上つて）まかすように「さて、宿題は終り！」

フツ

部屋の窓の灯りが消える。

〔24〕

暗い部屋の中。

（以降、顔のバンドエイドはなし）

ベッドで寝てる久美。

床で寝てる孝則。

手錠で繋がれた手が宙に浮いてる。

久美「ねえ、手が疲れない？」

孝則「うん……」

久美「あの……大久保くんもベッドに入ったら疲れないよね？」

驚く孝則。

久美「あつ、でも、寝るだけだからねー？　体に触つたら大声あげるからねー！」

笑顔で溜息をつく孝則。

〔 25 〕

孝則、ベッドに入り背を向けて
孝則「じゃ、おやすみ」

仰向けに寝てる久美と、

久美に背を向けて背中を丸めてる孝則。

久美の手は普通だが、孝則の腕がねじれてる。

久美「普通に寝たら？」

孝則（汗）「いこよ、これで！」

〔 26 〕

久美「？」

久美「どうしたの？」

孝則（汗、汗）「…高田さんの…毛布のにおいで…生理現象つ…」

久美「わっ、私で、また！？」

久美、真っ赤になつてあわてて背を向ける。

お互いに背を向け、赤面しながら氣まずやうに

久美「それって…苦しいの？」

孝則（背中）「うん…ちょっと」

孝則（苦笑しながら）「右手が自由だつたら自分で済ましちゃうん

だけどね

久美（背中）「あの…」

〔 27 〕

ドキドキ…

久美「私の右手……、使つ？」

ドキッ！

孝則「えつーー？」

久美、向きなおつて口を開じ、真っ赤な顔。

孝則「…高田さん、今日、失恋したばっかりだろ。淋しくても安売りしちゃダメだよ」

「そんなこと言つたら抱きしめちゃうぞ？」

久美「…大久保くんのこと、彼だと思つて泣いてもかまわないんなら、…抱きしめていいよ。」

〔 28 〕

見つめる孝則。

見つめる久美。

孝則の手が久美の肩に。

目をつぶり、涙目で唇を突き出す久美。

〔 29 〕

暗い寝室で、孝則と久美が抱き合っている。

脣が重ねられてる。

窓。

チユンチユン…

夜明け。

〔 30 〕

カシャーン！

外れる手錠。

そこはホームセンターのカウンター。

孝則（手をさすりながら）「そつか… 考えてみれば春彦のお父さんに力ギを借りればよかつたんだ！」

久美「あつ！」

久美「大久保くん、なんで気がつかなかつたのよ？」

孝則「高田さんこん」

クスツ

お互に微笑みあつ二人。

〔 31 〕

駅のホーム。

孝則（名残惜しそうに）「さて…これで、お別れだね」

久美（他人事のよつて）「ふーん…あんなことまでしといて『はい
サヨナラ』つて？」

孝則（汗）「え？」

久美（顔を赤らめ、目を逸らしながら探るよつて）「わたし、いつ
も8時12分の電車
に乗るんだけど……」

孝則（驚いてる）「……」

孝則（笑顔）「…つん…じゃあ、また明日ー。」

〔32〕

驚く久美。

久美（嬉しへの笑顔）「…じゃあ、また明日ー。」

プアアアアン…。
電車が走つていぐ。

～おわり～

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3350w/>

LOCK UP!

2011年10月9日16時02分発行